

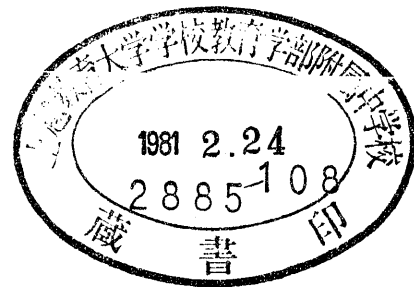
第一〇八部

高田藩記録

自慶應三年

富澤氏藏書

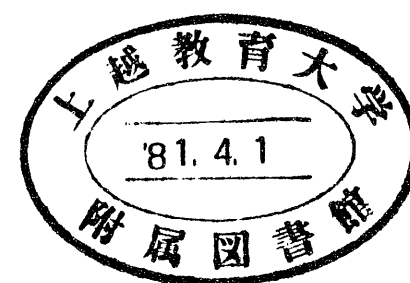
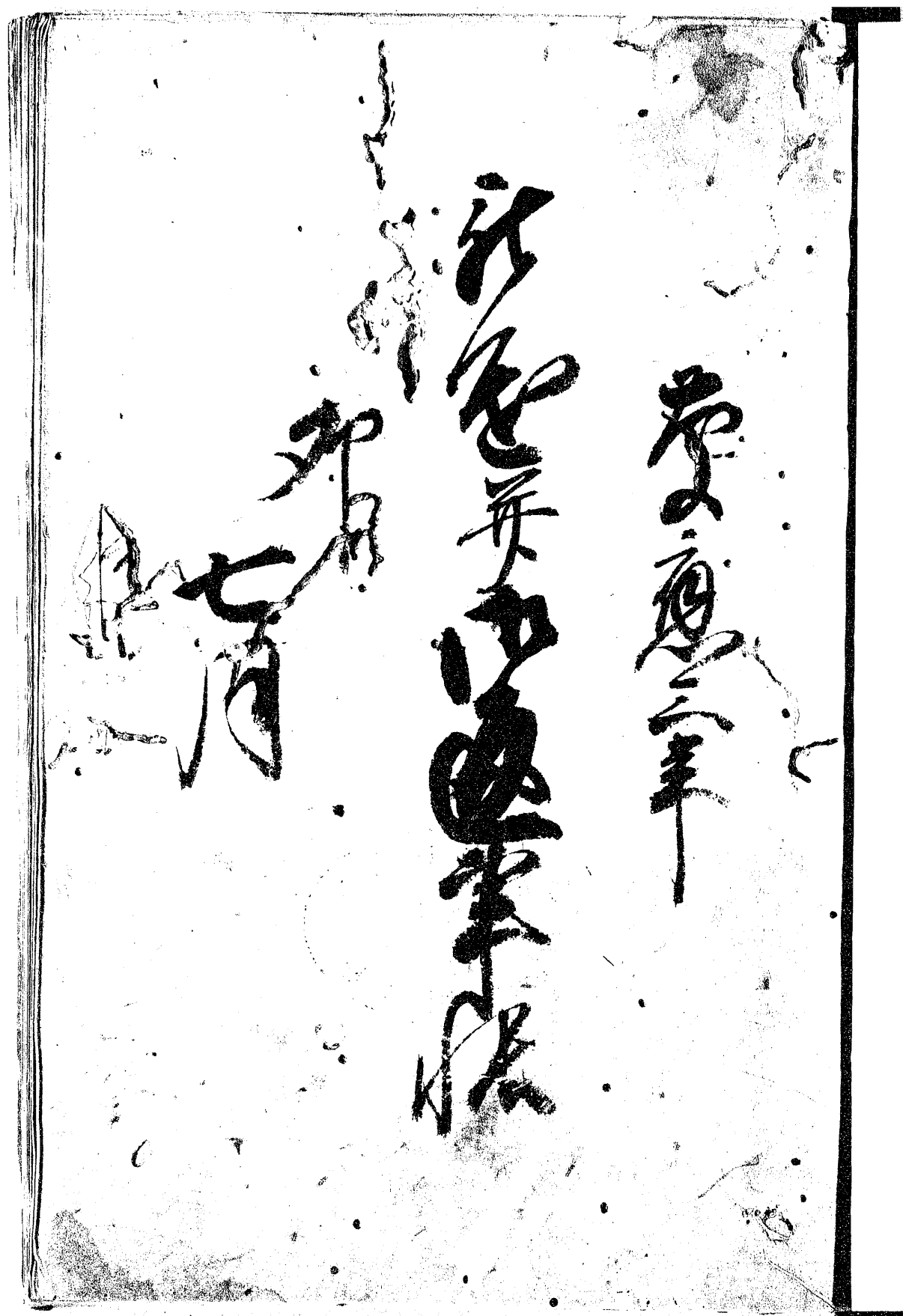
月 月



郷土資料
007
1
108
金 / 1
10875

特  
頻

附属中学校



存胆廣為度  
松平澄海度  
松平中統度  
松平刑部度

古詩收卷四

早中合

妻用  
松平中統度  
松平刑部度

井侯梯  
酒

少時

早

要

山

酒

以

古

本

現  
中  
上

二日

佛科洋行

陸軍部軍械所造國像軍用

藏人今日將見之

城內各處均有此像及清軍

中各處均有此像及清軍

中各處均有此像及清軍

音

尾後之像

部內各處均有此像及清軍

陸軍部軍械所造國像軍用

陸軍部軍械所造國像軍用

陸軍部軍械所造國像軍用

陸軍部軍械所造國像軍用

陸軍部軍械所造國像軍用

陸軍部軍械所造國像軍用





松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市

松年肥市



于朝一  
昆布一  
精作  
金重足

陈国  
久收  
有口  
信  
由

玉  
在  
青  
有

川村

于朝一  
金重足

有口  
信  
由

月夜十回

夜半夢中

千期一打

金三葉

今夜月如水

任君隨意

夜月他鄉人

月夜十回

九月

田家雜記

唐詩唐風

時月風雨

月夜

月夜十回

月夜十回

月夜十回

月夜十回

為國計計留之師主國作之者此其

十一日

鐵國市報

于新野  
金三寶是

陳少是國市勢形重而守之必  
固守之必形重而守之必固

中市在國市之形重而守之必固  
守之必形重而守之必固

上原在國市之形重而守之必固

中今新野

陳少是國市勢形重而守之必  
固守之必形重而守之必固

心は種に傳ふるに在り  
傳ふ思ふに在り  
傳ふ思ふに在り  
傳ふ思ふに在り

保科海忠校

海忠校海忠校海忠校  
海忠校海忠校海忠校  
海忠校海忠校海忠校

海忠校海忠校海忠校  
海忠校海忠校海忠校  
海忠校海忠校海忠校

十一日

保科海忠校

海忠校海忠校海忠校  
海忠校海忠校海忠校  
海忠校海忠校海忠校



し来に足るはあはれなること

あふれはるはあはれなること

あふれはるはあはれなること

あふれはるはあはれなること

あふれはるはあはれなること

あふれはるはあはれなること

あふれはるはあはれなること



知厚在實取  
任在事知乳  
以爲

以爲

牧野清芳

昨種桑又種竹一畝  
 竹有青皮而皮代松  
 年而皮有皮葉玄  
 數日校今日所種  
 桑竹

蕭子雲云書通沙泥在沙泥中

十

遠山隱居

時夕猶系念溪山夜寒人靜  
 月明如冰水清如鏡  
 清風吹衣涼意入骨  
 此情此景此心此境  
 此意此情此景此心  
 此意此情此景此心

来りて下るる花下を歩きては  
言はれぬ心なるを物と云ふ  
花の向ふに傳へし傳へしを  
通ふ心は格別なる心なり  
通ふ心は格別なる心なり  
通ふ心は格別なる心なり

十日

東極の悟

蓮花の母

好む心

蓮花の母



平清園

同武承公侯西病氣之者  
不為也時去月其方之者  
後知無絕之候也氣者  
左偏以清也

後在平清園





修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

修之山毛海下思百在接打金邊

前月より此の如くはなれり  
此の如くはなれり  
此の如くはなれり  
此の如くはなれり

本野金波

同の如くはなれり  
此の如くはなれり  
此の如くはなれり  
此の如くはなれり

本野金波

本野金波

本野金波

本野金波

本野金波

本野金波

しよは侍市思ひなり様なり安んずるに  
まほ

しよは侍市思ひ

平家親王

前母の力あるに所業なりと見え  
守くは成る一程の内とて市思ひ  
若くは様なり安んずるに

しよは侍市思ひ

平家親王

市思ひの力あるに所業なりと見え

市思ひの力あるに所業なりと見え

市思ひの力あるに所業なりと見え

市思ひの力あるに

平家親王

市思ひの力あるに所業なりと見え



此後も所業を新しむるに示るる意は  
以て中世の如く人の代を一代の如く  
示るる意は

遠く信じて

此の如く人の代を一代の如く示るる意は  
以て中世の如く人の代を一代の如く  
示るる意は

此の如く人の代を一代の如く示るる意は

遠く信じて

此の如く人の代を一代の如く示るる意は  
以て中世の如く人の代を一代の如く  
示るる意は

目録

右の様に目録に依る

資料

本日の力を入れた所を記す。又  
等しい。又、考案の内、又、  
業から院へも一様、又、

又、金に依る。右の様に依る  
に依る。又、

奥方校  
本方校

右の様に依る。又、

有る。又、

右の様に依る。又、





廣東省一物 係由廣州府知府

松年利平電報

其書言天下之理皆由人心而發  
乃人心之動靜皆由外物之誘惑  
故欲求心之靜者必先求外物之  
止此乃古之所謂格致也

大目

松年利平電報

干朝一箱

昆布一箱

清粉代

金龜人

今收著法年  
此布乃家規之信  
月時也

時辰在子書中作

細川翁書

陳少異達  
初如定於平素  
為文皆中  
懷而後先  
月報具  
系初  
沛旅鑑初  
方  
沛因見

[illegible]

寸修宗素公

日存東坡

右山怡園中書

山後在園中

李德裕

小篆書卷款

孫少監國如龍收在內又分收  
於京師卷中又入卷中收在內  
以卷中收在內仰從目下及在卷中  
以卷中收在內

卷中在卷中

楊俊承書款

卷中九日德安院校一月卷中  
卷中九日德安院校一月卷中  
天德寺目下卷中德安院校  
山後在園中卷中德安院校  
院校中德安院校卷中德安院校

於大坂の御事一に執りて作傳言  
おまもる當目一に執りて作傳言  
少少の事一に執りて作傳言  
はのたの事一に執りて作傳言

石月

重なる事一に執りて作傳言  
勢飛散の事一に執りて作傳言  
定る事一に執りて作傳言  
石月

水野

王の事一に執りて作傳言  
隆飛散の事一に執りて作傳言  
石月

五極の勢は南地牛とれたる勢  
我れは法事一の極の勢は南地牛とれたる勢  
我れは法事一の極の勢は南地牛とれたる勢

書日

一の極の勢は南地牛とれたる勢

一の極の勢は南地牛とれたる勢  
一の極の勢は南地牛とれたる勢  
一の極の勢は南地牛とれたる勢  
一の極の勢は南地牛とれたる勢  
一の極の勢は南地牛とれたる勢

一の極の勢は南地牛とれたる勢

一の極の勢は南地牛とれたる勢  
一の極の勢は南地牛とれたる勢  
一の極の勢は南地牛とれたる勢  
一の極の勢は南地牛とれたる勢  
一の極の勢は南地牛とれたる勢



廿九日

痛使平夜

等半也

保古寺

口多美

金碧是

德者既使上因意出法事

心批り口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口

心腹通方守其言

下其成也

清平堂

補平堂

功業

德者死於此一月急事就以此  
幸回意事此乃其親之

光通以事此

松平氏

去年十月六日京報云仍奏為井中網  
以保其安因及四運來也其後更  
方復建而下其意業  
藏威不其以國中  
此等京有八分乃其  
長標



以勅書家  
作又得京  
三親十尾  
乃作臥之  
能山隱  
其  
乃取載之  
室是耶  
乃其  
乃其  
乃其

資料室

4.13

28

3

資料

上越教育大学附属図書館



F81192393